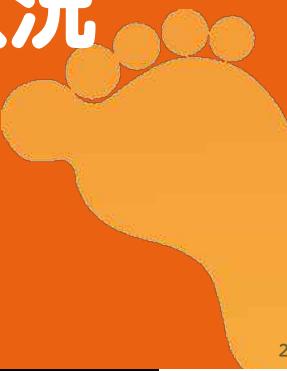




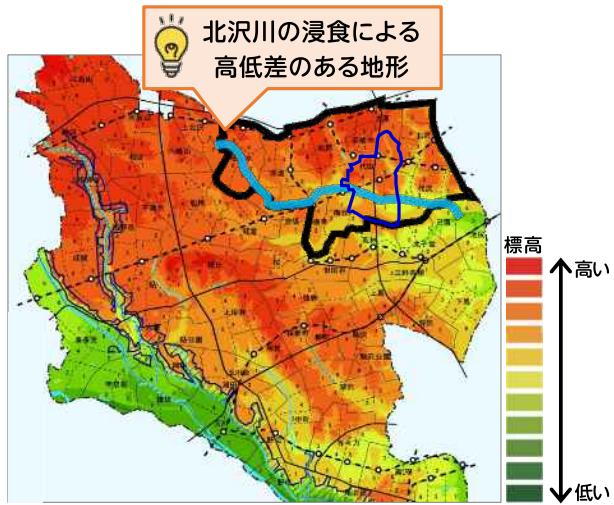
代田地区の状況



22

代田地区の状況

地形



成り立ち

- 明治期まで「農村地帯」
- 昭和初期～「私鉄が開通」
- 関東大震災による罹災者の移住等による人口急増。
- 昭和初期の耕地整理等による土地の区画整理がされる一方、戦後の人口急増による木造住宅密集地の発生

23

代田地区は、北沢川の浸食による高低差のある地形が特徴です。明治時代までは農村地帯でしたが、昭和初期から小田急線や井の頭線が開通し、関東大震災による罹災者の移住等により、人口が急増し、郊外住宅地化が進んできました。

昭和初期に行われた耕地整理等により、土地の区画整理がされる一方、戦後の人口増により、木造住宅が密集する市街地も存在しています。

代田地区の状況

代田村図



世田谷区代田
(S39住居表示による)

出典:世田谷の地名(上)

24

代田地区は、世田谷城城主 吉良氏朝の家臣であった「代田七人衆」がこの地に帰農し、開墾したのが始まりと伝えられています。かつての「代田村」は、現在の代田、大原、代沢の一部にも及んでいました。

昭和39年の住居表示の実施により、現在の代田1~6丁目となりました。

代田地区の状況



25

地区内には7つの町会があり、小田急線の南側が梅丘まちづくりセンター、北側が新代田まちづくりセンターの管轄区域となっています。

小学校は4つの学区域があります。



代田地区の状況



京王井の頭線



小田急小田原線



環状七号線



羽根木公園

交通



みどり



新たな公共施設



まもりやまテラス



代田区民センター



さくら花見堂



北沢川緑道

26

地区の施設・交通としては、東西に小田急線及び京王井の頭線、南北に環状七号線があります。羽根木公園・北沢川緑道の緑地・緑道、近年整備された代田区民センター・さくら花見堂・まもりやまテラスの地域の交流拠点があります。



代田地区の状況



代田餅搗き(三土代会)



代田八幡神社



環七壁画(SAP)

文化財



地域活動

せたがや百景



梅と桜の羽根木公園

地域風景資産



羽根木公園にある
羽根木プレーパーク



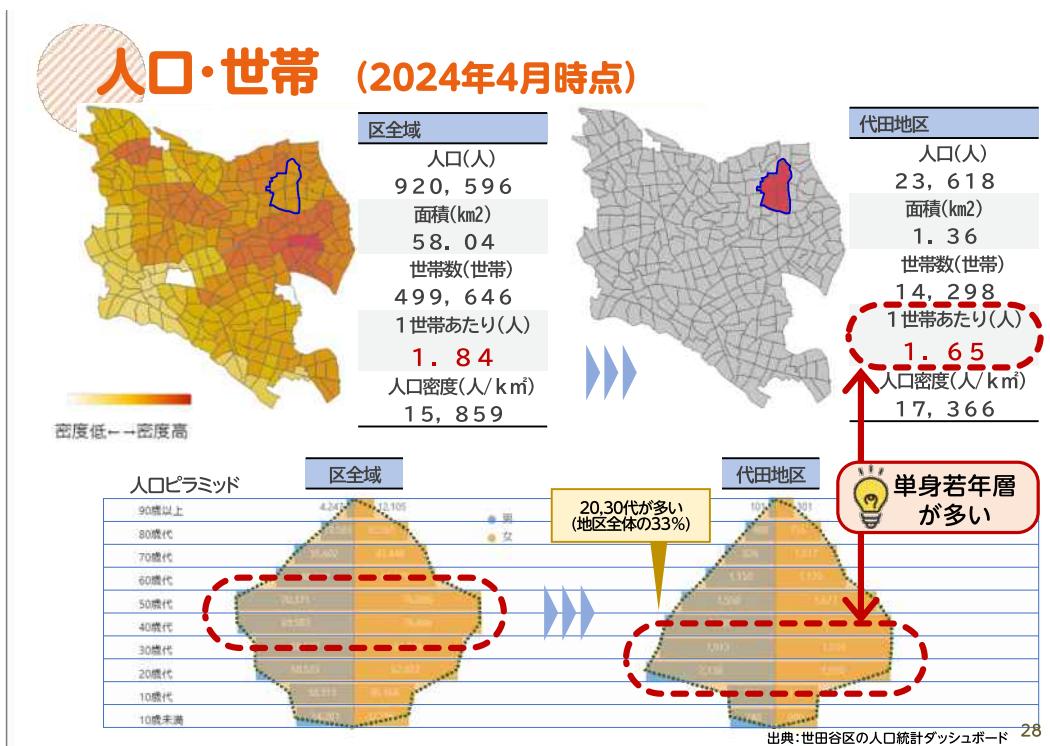
代田の丘の61号鉄塔

27

地区の活動・文化としては、
区 指定無形民俗文化財(民俗芸能)に登録されている代田餅搗き
(三土代会)、区 指定有形文化財(建造物)に登録されている代田
八幡神社があります。

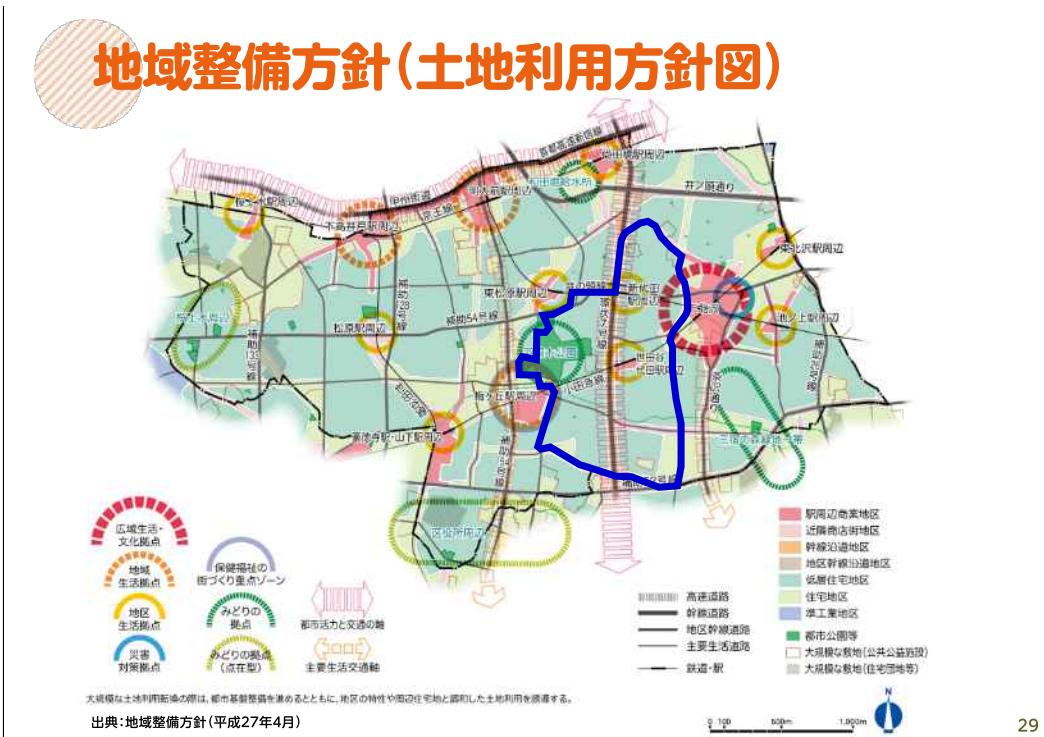
地域の活動団体であるSAPによって、通学路の安全、落書き防止
のため環七壁画が描かれていたり、地域風景資産に選定されてい
る羽根木プレーパークや代田の丘の61号鉄塔があります。

他にも地区には、だいだらぼっちの伝承もあります。



区HPで公表している4月現在の人口統計です。
人口密度マップでは、都心に近い区の東側ほど人口密度が高く、
近年人口が増えています。
1世帯当たりの人数を比較すると、区全体では「1.84人」、代田地区では「1.65人」。人口ピラミッドで比較すると、区全体では「40～50代」が多く、代田地区では「20～40代」が多い状況です。
高齢化率も区全体より低い傾向にあり、代田地区は、単身の若者層が多い地区と推測されます。

地域整備方針(土地利用方針図)



区の都市整備方針における地域整備方針の土地利用方針図です。代田地区は、戸建て住宅や集合住宅からなる良好な住環境を維持する、緑色の「低層住宅地区」が主体となっています。「環状7号線」は、交通を区内外にわたり連絡し、都市としての活力を育む軸であるとともに、震災時の火災の延焼遮断や緊急輸送を担う、骨格的な防災の軸、となっています。「世田谷代田駅」「新代田駅」周辺は地域の「核」となる区民の身近な交流の場としての位置づけがあります。「羽根木公園」は緑の拠点となっています。



土地利用の状況



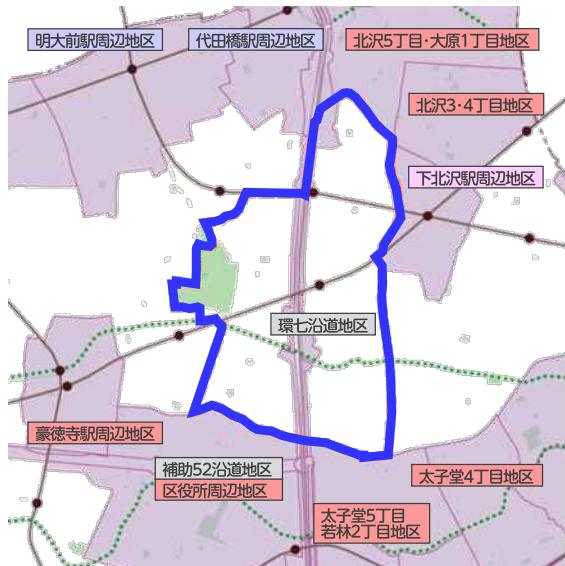
出典:世田谷の土地利用2021

30

- 専用住宅
- 集合住宅
- 商業施設(専用)
- 住所併用建物
- 事務所建築物
- 教育文化施設
- 公園・運動場

土地利用状況として、建物の用途を色別に分けた図です。
地区内には、専用住宅や集合住宅が大半を占めており、駅前や環
状七号線や梅丘通り沿いに商業施設がある状況です。

地区街づくり計画等の指定



幹線道路沿道の街並み誘導

にぎわいの誘導

京王線連続立体交差事業

防災促進（木造密集地の改善）

31

周辺の地区街づくり計画等の指定状況についてです。

代田地区内においては、灰色の、「環状7号線沿道地区計画」が指定し、周辺の住宅地への騒音を遮断するような建築形態の誘導をしています。

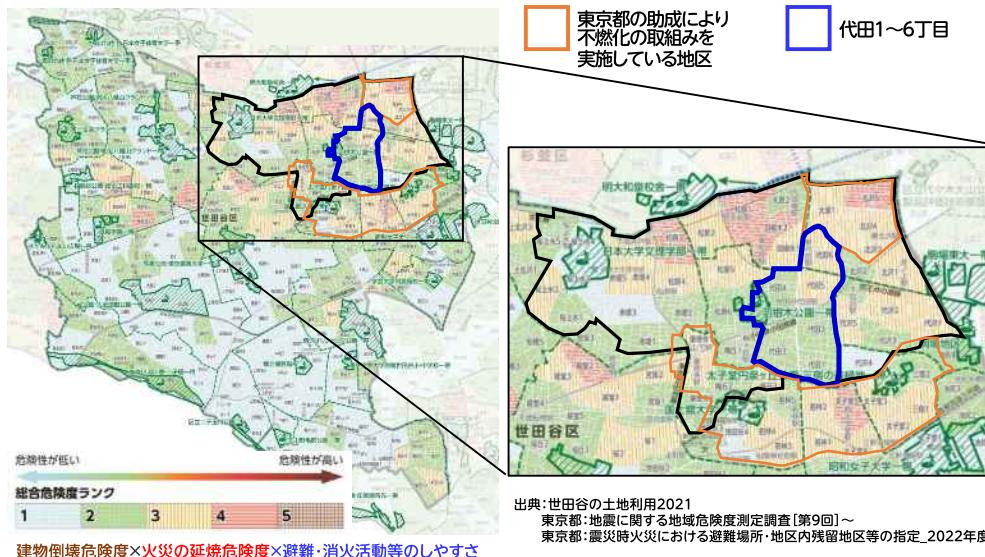
周辺では、すでに複数の地区街づくり計画の指定がされています。ピンク色の下北沢では、まちの賑わいを誘導するため、1階を店舗などにするルールがあります。

紫色の京王線連続立体交差事業に関連した街づくりを誘導するものです。

それ以外の赤色の地区は、戦後の急速な市街化により形成された木造の密集地の改善を誘導するものです。



東京危険度マップ（総合危険度ランク）



32

東京都が公表している総合危険度のマップです。
都内の町丁目において、建物倒壊危険度と火災危険度に、避難・
消火・救助活動のしやすさの係数を乗じたものを、東京都が5年
ごとに相対評価でランク付けしているものです。
周辺では危険度が高いとされる4以上の地域があるものの、代田
地区では3以下の状況です。

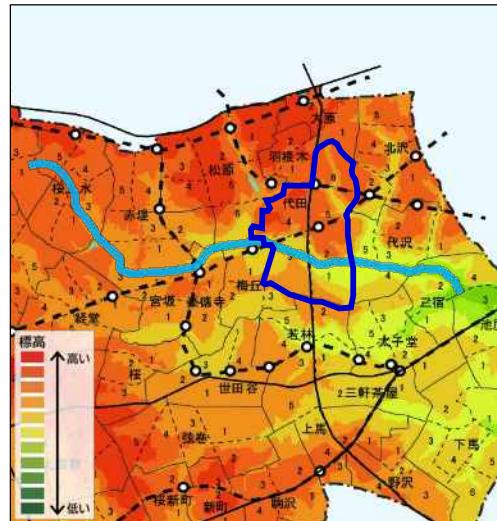


ハザードマップ

内水氾濫想定図(浸水深さ)



地形図

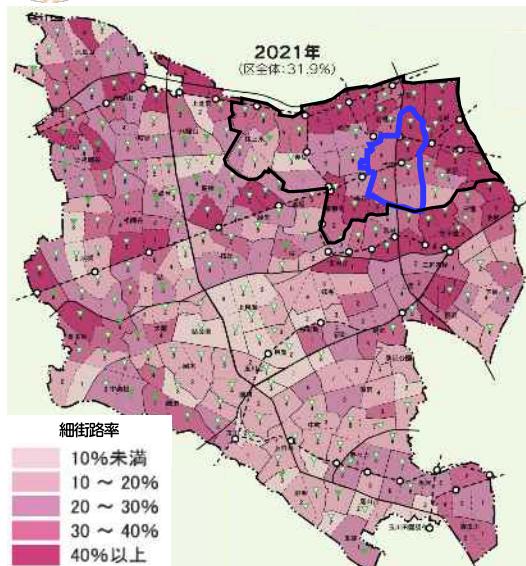


ハザードマップの内水氾濫想定図です。

地形図と比較すると、川が流れている、流れていた場所は周囲より標高が低く、水位も高いため、内水氾濫が起こりやすいことがわかります。

代田地区では、北沢川緑道や、まもりやまテラスからシモキタ雨庭広場に続く道沿いに浸水の可能性があります。

細街路率



少	代田 1	26%
↔	区全域	32%
北沢地域	41%	
多	代田 6	43%
	代田 5	45%

狭い道路が多いと。。。
・災害時の避難や救助が
しにくく防災上も課題
・介護車両が入りにくい

34

防災にも関わる、道路についてです。

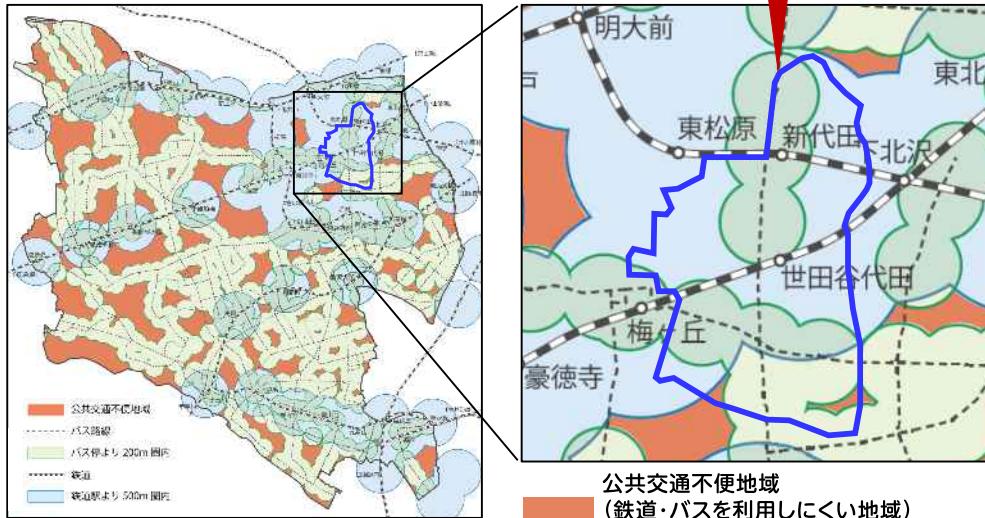
4m未満の狭い道路の割合を細街路率として示した図になります。
区全域の32%に対し、北沢地域全体は41%と高くなっています。
代田5、6丁目はさらに高い数値になっています。

一方、耕地整理が行われていた代田1丁目の細街路率は低くなっています。

狭い道路が多いと、災害時の避難や救助の課題はもちろん、日々の生活で介護車両が入りにくいなど生活に影響する課題があります。

公共交通不便地域

他地域に比較し、
公共交通は充実している



出典：世田谷区道路整備白書（令和6年4月）

35

鉄道から500m、バスから半径200mの範囲外の地域を「公共交通不便地域」と定義し、本図ではオレンジ色で着色しています。

区西部では公共交通不便地域が多い一方、代田地区では公共交通不便地域はほとんどなく、区全域と比較しても公共交通が充実している地区と言えます。



みどりの基本計画

■公園緑地配置方針図



出典:世田谷区みどりの基本計画(H30)



北沢地域

■概況

- ・高密な市街地
- ・小規模な敷地が多い
- ・全体的にみどりが少ない地域

■みどりの街づくりの方向

- ・防災性の向上を図るために、みどりを大切に活かす (北沢川緑道、小田急線上部利用空間、みどりの拠点、社寺など)

住宅地エリアの小規模でも多様なみどりがつながる街をめざす

36

世田谷区のみどりの基本計画において、北沢地域は高密な市街地で緑が少ない地域とされています。

公園緑地配置方針図では、羽根木公園から離れた場所に「公園緑地が少なく公園緑地を配置する地域」とされる黄色の箇所があります。

北沢地域のみどりに関する街づくりの方向性としては、

- ・防災性の向上を図るために、みどりを大切に生かすこと
- ・小規模でも多様なみどりがつながる街を目指すこと

としています。

まとめ

地形

 北沢川の浸食による高低差のある地形

施設

 公共施設の新たな整備
世田谷代田駅駅前広場、さくら花見堂、まもりやまテラス、
代田区民センター、代田富士356広場、小田急線上部通路

人口

 単身若年層が多い

防災・道路

 防災・狭い道路の課題

交通

 公共交通の充実

みどり

 小規模でも多様なみどりのつながりを目指す

37

これまでの代田地区の状況のまとめです。

・北沢川の浸食による高低差のある地形から街がつくられてきたこと

・近年、新たな公共施設が整備されてきていること

・単身若年層が多いこと

・防災や生活の上で、狭い道路が課題であること

・公共交通が充実していること

・住宅エリアの小規模でも多様なみどりのつながりを目指すことが位置付けられている地区であります。